

プロフィール別に見る留学生の図書館・情報サービス利用：
東京大学における実態調査の分析から

An analysis of international students' use of library and information services
according to their profiles: Based on a survey in the University of Tokyo

* 東京大学大学院 教育学研究科
Graduate School of Education, University of Tokyo

** 大学評価・学位授与機構 評価研究部
Faculty of University Evaluation and Research, National Institution for Academic
Degrees and University Evaluation

奥山智紀* 芳鐘冬樹** 顧 銘* 呉 凱* 三浦逸雄*
OKUYAMA, Tomoki YOSHIKANE, Fuyuki GU, Ming WU, Kai MIURA, Itsuo

Abstract

This study aims to discover how international students get information and use library services for their study and daily life. For this purpose we conducted a questionnaire survey in Dec. 2001, and 478 completed questionnaires (23.5%) were returned. The questionnaire falls into three categories: (1) Questions about satisfying their information needs; (2) Questions about using libraries in the University; (3) Questions about personal data. In this study, we analyze the questionnaire survey from the viewpoint of students' profiles, and report the results of the analysis.

1. はじめに

現在、日本における外国人留学生の受入れは、ひとつの転機にあると言える。1983年の「21世紀への留学生政策に関する提言」および1984年の「21世紀への留学生政策の展開について」の提言の中で、いわゆる「留学生受入れ10万人計画」が示され、以後この施策に基づいて、日本政府は留学生の受入れを積極的に推進してきた。「提言」から20年を経た2003年、留学生の総数は初めて10万人を超え（2003年5月1日現在109,508人）、「留学生受入れ10万人計画」は20年がかりでの達

成となった¹⁾。この目標達成を契機として、文部科学省は「これからは、量的な面だけではなく、質的な充実を図らなければならない」²⁾という方向性を示唆している。

留学生受入れにおける「質的な充実」にあたっては、教育・支援体制等の面での条件整備が必要となる。大学図書館は、高等教育体制の中で不可欠な要素として、これまで留学生の学習や研究を主に情報と資料の面から支援してきているが、図書館サービスを中心とする情報・資料提供サービスにはさらに充実・改善すべき点がまだ数多くあ

ると考えられる。留学生を支援するサービスの改善を図るためには、まず、留学生が日頃の学習や研究を進める上で必要な情報や資料をどのような方法で探し、入手し、利用しているかについての実態を把握する必要があるだろう。しかしながら、我が国では、留学生サービスに関して、大学図書館を対象とした調査は若干見られるが^{3, 4, 5)}、留学生自身を対象にした実態調査は、これまでほとんど試みられてこなかった。そこで、著者らは、東京大学に在籍している外国人留学生を対象に、彼らの情報・資料についてのニーズや利用行動を明らかにするための調査を実施した。

この調査の結果に関して、概要は既に報告しているが^{6, 7)}、本稿では、さらに、サービス改善に向けてのより詳細な示唆を得ることを目的として、調査対象者をプロフィール別カテゴリーに分類し、それぞれのカテゴリーでどのような図書館・情報サービスの利用がなされているかを分析する。分析の結果をもとに、所属（専攻分野）による図書館利用・資料収集の傾向の相違、身分（課程）別の図書館利用から見た研究・情報収集活動の特徴、出身地域（母国語）別に見る図書館サービスの利用や求める図書館サービスの傾向の相違等について明らかにし、大学図書館の研究支援機能を発展させるうえでの展望を得るための一助とすることが本稿の狙いである。

2. 調査・分析手法

2.1 調査の対象と手法

東京大学は、日本の留学生受入れ大学のうち、受入れ数が最も多い大学である。調査を行った2001年には、83の国々から訪れた2,037名の外国人留学生が、東京大学の学部・大学院・研究所等に在籍している（2001年5月1日現在⁸⁾）。その内訳を示した表1から、大多数が大学院生（博士課程・修士課程・研究生）であることが分かる。著者らは、学部留学生を含む2,037人の外国人留学生全員を調査対象として、アンケート調査を實

施した。

具体的な手順としては、東京大学事務局留学生課を通して、各部局・研究室宛にアンケート調査票を送り、そこから留学生個人に手渡してもらった。2001年12月18日、19日にアンケート調査票を送り、締め切り日は2002年1月31日に設定した。アンケート調査票は日本語と英語のものを作成し（日本語のものについては、付録参照）両方を調査対象に配って、いずれか一方の調査票で回答してもらった。調査票は、「情報・資料ニーズの充足手段」（質問1-2）、「図書館の利用状況」（質問3-13）、「プロフィール」（質問14-18）という3つの大きな項目が設定され、全部で18の質問で構成されている。

2.2 分析の対象と手法

2002年1月31日の時点で、474通の回答を回収した。その後送られてきた4通の回答も含めて総回収数は478通で、回収率は23.5%である。

まず、478通の回答を、学部学生からのものと大学院レベルの学生のものに分別した。両者は、学習・研究スタイルがかなり違うため、区別して分析する必要があると考えたためである。本稿では、留学生全体の大部分を占める大学院レベルの学生（修士課程・博士課程・大学院研究生・研究所研究生）からの回答441通（全回答の96.0%）のみを集計対象とし、主に「大学院生に対する研究支援」に着目した分析を試みる。

前回の研究（三浦ら，2003）⁹⁾では、調査結果の概要として、留学生は、その属性・バックグラウンドに関わらず、情報・資料の入手にあたりインターネットおよび東京大学の図書館関連施設（総合図書館・学部図書室等）を経由するものが大半を占めていること等を報告した。本稿では、利用者の属性別に見たさらに詳細な利用動向の把握を目的に、アンケート調査（質問14-18）によって得られたデータに基づいて、調査対象者をプロフィール別カテゴリーに分類し、それぞれの力

表1 東京大学の留学生数

| | 学 部 | | 大 学 院 | | | 研究所 | 計 |
|------|------|------|-------|-------|-------|------|--------|
| | 学部学生 | 研究生 | 修士課程 | 博士課程 | 研究生 | 研究生 | |
| 留学生数 | 192 | 37 | 472 | 908 | 408 | 20 | 2037 |
| 比 率 | 9.4% | 1.8% | 23.2% | 44.6% | 20.0% | 1.0% | 100.0% |

テゴリーでどのような図書館・情報サービスの利用がなされているかを分析する。具体的には、専攻分野（文系・理系）別での利用動向、身分（修士課程・博士課程）別の利用動向、および出身地域（漢字圏・非漢字圏）別の利用動向について検討する。分析手法としてはクロス集計表によるカイ2乗検定を使用し、カテゴリー間での有意差の有無について検証する¹⁰⁾。

表2に、本研究が分析対象とする大学院レベルの回答者数をプロフィール別に示した。回答者数を在籍者数で除した回答率で見ると、それぞれ、文系（11.0%）・理系（31.6%）、修士課程（25.2%）・博士課程（27.1%）、漢字圏（21.5%）・非漢字圏（28.4%）となっている。回答率の傾向として、文系の留学生の回答率が理系の留学生に比べて低いこと、漢字圏出身者の回答率が非漢字圏出身者に比べて低いことが窺える。本調査の結果を解釈するにあたって、データがこのような偏りを持っている点に留意する必要がある。

3. 分析結果

利用者の属性と利用動向のクロス集計を行った結果を報告する。特に、有意差が見られた項目については、結果を表に示した。ただし、表中の数字は、()の左が度数、()内が調整済み残差である。

3.1 専攻分野（文系・理系）別に見る利用動向

Borgman¹¹⁾は、情報検索において専攻分野（人文・社会・自然科学）の違いが検索のスタイルや情報源の利用にあたっての優先順位の違いと関連することを指摘している。著者らは、前回の研究（三浦ら，2003）において、既にアンケートの単純集計に基づいて図書館利用状況等に関する比較検討を行い、「理系よりも文系の留学生の情報・資料入手方法の範囲が広く多岐にわたっている」といった傾向について報告している。本稿では、図書館、電子ジャーナル、データベース・サービスの利用状況に関して統計的な検証を行うことにより、文系の留学生と理系の留学生との間に、求める情報源へのアクセスにどのような違いが見られるかについて、さらに厳密に検討する。

まず、総合図書館、所属学部図書館、所属以外の学部図書館の3種類の図書館施設において、文系と理系の大学院生の間にはどのような利用動向の相違が見られるかに関して検討する。「東京大学の図書館・室の利用について」（質問3）について文理別にクロス集計分析を行ったところ、所属学部の図書館においてのみ文理で有意差は確認できず、総合図書館および所属以外の学部図書館の利用については文系の留学生がよく利用することが示された（表3）。逆に「データベース・サービスの利用」（質問7）および「電子ジャーナルの利用について」（質問8）は、理系の方が利用頻度は有意に高いことが示された（表4・5）。

表2 大学院レベルの回答者数

| | 大 学 院 | | | | | | 研 究 所 | | 計 |
|------|-------|----|-----|----|-------|----|-------|----|-----|
| | 修 士 | | 博 士 | | 研 究 生 | | 研 究 生 | | |
| | 理系 | 文系 | 理系 | 文系 | 理系 | 文系 | 理系 | 文系 | |
| 漢字圏 | 46 | 16 | 116 | 25 | 34 | 16 | 6 | 0 | 259 |
| 非漢字圏 | 51 | 6 | 102 | 3 | 14 | 3 | 1 | 2 | 182 |
| 計 | 97 | 22 | 218 | 28 | 48 | 19 | 7 | 2 | 441 |

表3 図書館・室の利用（文理別）

| | | よく利用している | あまり利用していない | 利用したことがない | 合計 |
|------------|----|------------|------------|-----------|-----|
| 総合図書館 | 理系 | 108 (-5.7) | 198 (3.3) | 62 (3.1) | 368 |
| | 文系 | 46 (5.7) | 23 (-3.3) | 2 (-3.1) | 71 |
| 所属以外の学部図書館 | 理系 | 90 (-0.9) | 178 (-1.4) | 99 (2.6) | 367 |
| | 文系 | 21 (0.9) | 41 (1.4) | 9 (-2.6) | 71 |

ここに示した利用動向の違いの背後にある要因として、文系と理系の(i) 学術文献の流過程やオンライン上での充実度の違い、(ii) コンピュータを用いた情報検索の利用頻度・習熟度の違い、そして(iii) 研究スタイルの相違等が推測されるが、各々の要因の影響度について検討することは、今後の課題であり、将来の大学図書館における蔵書構成やオリエンテーションのカリキュラムを考えるうえで非常に重要であると考えられる。

3.2 身分(修士・博士課程)別に見る利用動向

利用者の身分(学術的な地位)によって情報検索や図書館利用についてどのような違いが見られるかを検証した文献は少ない。Spink¹³⁾は、学術的な地位(大学教員・博士課程学生・修士課程学生)と、検索経験(過去オンラインでの検索経験があるか否か)を基準に利用者を6つのグループに分類し、検索結果との相関を検証した。結果は、「学術的な地位」と「検索経験」とを組み合わせた時に説明変数として有意であったものの、「学術的な地位」あるいは「検索経験」単独では、有意差は見られなかった。つまり、Spinkの調査では、オンライン検索において身分(学術的な地位)の違いだけでは検索結果に有意な違いを及ぼさないという結果が得られている。本稿では、情報検索に限らず、図書館利用の各局面で、利用者の身分

(修士・博士課程)によって、どのような相違が見られるかについて、図書館サービスの利用に関する質問の回答結果をもとに以下の分析を行った¹⁴⁾。

- (a)「東京大学における図書館・図書室の利用」(質問3)についてのアンケート集計結果をもとに、修士・博士で利用動向に差を認められるかどうかについてクロス分析を実施した。結果は、「所属学部以外の図書館・室」の利用についてのみ有意差がある(博士課程の院生の方が所属学部以外の図書館・室を利用することが確認された(表6))。このことは、博士論文の執筆をはじめとする博士課程での研究活動において、より広い範囲での情報・資料収集が求められていることを示唆するものとも考えられる。東京大学附属図書館のシステムの特徴である各学部図書館・室を基点とする分散的な蔵書管理のシステムは博士課程院生に対する研究支援機能の発揮にあたってどの程度有効であるか(あるいは集中的な蔵書管理の方が適切か)は、今後の大きな検討課題と言える。
- (b)「東大の図書館・室が提供しているサービスの利用について」(質問4)についても同様の分析を試みたところ、結果は「相互貸借サービス」「雑誌の閲覧・貸出・コピー」にお

表4 データベースの利用(文理別)

| | | よく利用している | あまり利用していない | データベース・サービスを知らない | 知っているが利用したことがない | 合計 |
|-----------|----|-----------|------------|------------------|-----------------|-----|
| データベースの利用 | 理系 | 182 (1.9) | 89 (-3.0) | 67 (2.0) | 27 (-1.2) | 365 |
| | 文系 | 26 (-1.9) | 29 (3.0) | 6 (-2.0) | 8 (1.2) | 69 |

表5 電子ジャーナルの利用(文理別)

| | | よく利用している | あまり利用していない | 電子ジャーナルの提供について知らない | 知っているが利用したことがない | 合計 |
|------------|----|-----------|------------|--------------------|-----------------|-----|
| 電子ジャーナルの利用 | 理系 | 214 (6.9) | 65 (-4.3) | 70 (-2.1) | 19 (-3.2) | 368 |
| | 文系 | 9 (-6.9) | 28 (4.3) | 21 (2.1) | 11 (3.2) | 69 |

表6 図書館・室の利用(身分別)

| | | よく利用している | あまり利用していない | 利用したことがない | 合計 |
|--------------|----|-----------|------------|-----------|-----|
| 所属以外の学部図書館・室 | 修士 | 20 (-3.2) | 70 (1.9) | 29 (1.1) | 119 |
| | 博士 | 82 (3.2) | 120 (-1.9) | 48 (-1.1) | 250 |

いて修士・博士別での有意差が認められた(表7)。この結果から、博士課程に在籍する院生への研究支援にあたって、大学図書館は、より強固な相互ネットワークの構築、そして、より適切な雑誌コレクションの構築が望まれると言えよう。相互ネットワークに関しては、相互貸借サービスだけでなく、(特に大学院に重点を置く大学の)図書館コンソーシアムのさらなる充実・発展が重要になると考えられる。

- (c)「東京大学の Web OPAC の利用頻度」(質問5)および「東大 OPAC の利便性」(質問6)については、修士・博士で有意差は見られなかった。資料検索にあたって、必ず利用するであろう OPAC についての利用・評価に関しては、修士・博士で差異がないことが確認された。
- (d)「東京大学の図書館・図書室が提供しているデータベースの利用」(質問7)および「東

京大学附属図書館が提供している電子ジャーナルの利用」(質問8)については、博士課程での利用が有意に高かった(表8・9)。この結果から、先行研究や関連分野についての情報検索・利用に際して、博士課程の院生の方が、デジタル媒体の情報サービスをより頻繁に利用することが示された。

- (e)留学生向けのサービスとして東京大学総合図書館に設置されている「留学生図書コーナー、衛星放送視聴ブース(CNN、BBC、CCTV)、外国語新聞(12カ国語)の利用状況」について(質問9)は、留学生図書コーナーについてのみ修士・博士で有意差(修士課程の院生の方が頻繁に利用)があり、その他のサービスについては差異が認められなかった(表10)。ただし、前回の研究(三浦ら, 2003)においても示したように、留学生向けのサービスの利用率は全般的に低調であり、サービスの品質改善や広報等について再考すべき時

表7 図書館サービスの利用(身分別)

| | | よく利用している | あまり利用していない | 利用したことがない | 合計 |
|--------------|----|-----------|------------|-----------|-----|
| 雑誌の閲覧・貸出・コピー | 修士 | 62 (-2.7) | 40 (1.4) | 18 (2.4) | 120 |
| | 博士 | 166 (2.7) | 66 (-1.4) | 18 (-2.4) | 250 |
| 相互貸借サービス | 修士 | 14 (-2.7) | 39 (-0.7) | 65 (2.8) | 118 |
| | 博士 | 59 (2.7) | 91 (0.7) | 99 (-2.8) | 249 |

表8 データベースの利用(身分別)

| | | よく利用している | あまり利用していない | データベース・サービスを知らない | 知っているが利用したことがない | 合計 |
|-----------|----|-----------|------------|------------------|-----------------|-----|
| データベースの利用 | 修士 | 48 (-2.7) | 36 (1.3) | 24 (2.0) | 9 (0.1) | 117 |
| | 博士 | 137 (2.7) | 59 (-1.3) | 30 (-2.0) | 18 (-0.1) | 244 |

表9 電子ジャーナルの利用(身分別)

| | | よく利用している | あまり利用していない | 電子ジャーナルの提供について知らない | 知っているが利用したことがない | 合計 |
|------------|----|-----------|------------|--------------------|-----------------|-----|
| 電子ジャーナルの利用 | 修士 | 50 (-3.3) | 25 (0.3) | 34 (3.4) | 10 (0.8) | 119 |
| | 博士 | 147 (3.3) | 48 (-0.3) | 34 (-3.4) | 15 (-0.8) | 244 |

表10 留学生向けサービスの利用(身分別)

| | | よく利用している | あまり利用していない | 知らない | 知っているが利用したことがない | 合計 |
|-----------|----|-----------|------------|-----------|-----------------|-----|
| 留学生図書コーナー | 修士 | 20 (1.9) | 41 (1.9) | 37 (-3.0) | 19 (0) | 117 |
| | 博士 | 24 (-1.9) | 61 (-1.9) | 116 (3.0) | 39 (0) | 240 |

期にあるようである。留学生の需要や利用性向に合わせたサービス提供が望まれる。

(f)「東京大学の図書館に望んでいるサービス」(質問12)および「東京大学図書館でこれまで以上に収集して欲しい資料」(質問13)に関しては、いずれの質問項目についても修士・博士別で有意差は認められなかった。図書館サービスや蔵書構築に関しての需要傾向は修士・博士でほぼ一致していることが確認された。

3.3 出身地域(母国語)別にみる利用者動向

東京大学に所属する留学生の出身国は、2001年5月現在、83国にわたっており、利用者の母国語ごとに図書館利用の実態を探ることは非常に困難である。そこで今回は漢字圏(韓国・中国・香港・台湾)出身者と非漢字圏(その他の国々)出身者の利用動向について比較検討を行った。

(a)「東京大学における図書館・図書室の利用」(質問3)については、総合図書館と所属学部の図書室において漢字圏出身の方がよく利用するという結果が得られ、所属以外の学部図書室については有意差が認められなかつ

た(表11)。このことは、漢字圏出身であることが図書館利用にあたって、日本語習熟度の点から有利に働いていることを示しているとも考えられる。

(b)「東大の図書館が提供しているサービスの利用」(質問4)では、「図書の閲覧・貸出・コピー」「コンピュータ機器の利用」「学習のためのスペース」の各項目については、漢字圏出身の方が利用するという結果が得られ、逆に「雑誌の閲覧・貸出・コピー」「レファレンスサービス」については非漢字圏出身の方がよく利用するという結果が得られた。「相互貸借サービス」「新聞の閲覧」については有意差は認められなかった(表12)。このことから、漢字圏出身者は、図書の利用のほかにはコンピュータの利用や学習のためのスペースといった「場としての図書館」を利用する傾向があるのに対し、非漢字圏出身者は、レファレンスサービスや雑誌を相対的に多く利用していることが窺える。このような相違が、日本語の習熟状況によるものか、図書館の蔵書構成によるものか、あるいは母国での大学図書館利用の慣習に依存しているものかについては今後の検討課題となろう。

表11 図書館・室の利用(出身別)

| | | よく利用している | あまり利用していない | 利用したことがない | 合計 |
|----------|------|------------|------------|-----------|-----|
| 総合図書館 | 漢字圏 | 109 (3.8) | 117 (-2.4) | 31 (-1.8) | 257 |
| | 非漢字圏 | 45 (-3.8) | 104 (2.4) | 33 (1.8) | 182 |
| 所属学部の図書室 | 漢字圏 | 227 (2.5) | 27 (-2.3) | 3 (-0.8) | 257 |
| | 非漢字圏 | 145 (-2.5) | 33 (2.3) | 4 (0.8) | 182 |

表12 サービスの利用(出身別)

| | | よく利用している | あまり利用していない | 利用したことがない | 合計 |
|--------------|------|------------|------------|-----------|-----|
| 図書の閲覧・貸出・コピー | 漢字圏 | 219 (4.0) | 37 (-3.9) | 5 (-0.5) | 261 |
| | 非漢字圏 | 127 (-4.0) | 55 (3.9) | 5 (0.5) | 187 |
| コンピュータ機器の利用 | 漢字圏 | 125 (3.0) | 79 (-1.7) | 55 (-1.6) | 259 |
| | 非漢字圏 | 63 (-3.0) | 71 (1.7) | 52 (1.6) | 186 |
| 学習のためのスペース | 漢字圏 | 94 (5.5) | 98 (-3.1) | 52 (-2.1) | 244 |
| | 非漢字圏 | 25 (-5.5) | 98 (3.1) | 54 (2.1) | 177 |
| 雑誌の閲覧・貸出・コピー | 漢字圏 | 137 (-2.8) | 89 (2.6) | 33 (0.6) | 259 |
| | 非漢字圏 | 123 (2.8) | 43 (-2.6) | 20 (-0.6) | 186 |
| レファレンスサービス | 漢字圏 | 27 (-5.2) | 75 (-3.3) | 155 (7.2) | 257 |
| | 非漢字圏 | 55 (5.2) | 82 (3.3) | 47 (-7.2) | 184 |

- (c)「東京大学の Web OPAC の利用頻度」(質問 5)については、有意差は見られなかった。出身地域の違いが OPAC の利用頻度に影響を与えないという結果から、出身地域の言語に関わらず、資料を探す際 OPAC への依存度が高いことが推測される。それゆえに、今後多言語に対応したより使いやすい検索機能の開発・改善が求められていると言えよう。
- (d)「東京大学の図書館・図書室が提供しているデータベースの利用」(質問 7)に関しては、漢字圏出身の方が、利用頻度が有意に高く、「東京大学附属図書館が提供している電子ジャーナルの利用」(質問 8)については、有意差はなかった(表13)。この結果は、電子ジャーナルに関してはほとんどが英語論文であるため、出身国の違いが利用に影響を及ぼさないことによるものと推測される。

- (e)「留学生向けのサービスの利用状況について」(質問 9)は、母国語新聞の利用についてのみに有意差(漢字圏出身の院生の方が頻繁に利用)があり、その他のサービスについては差異が認められなかった(表14)。
- (f)「東京大学の図書館に望んでいるサービス」(質問12)については、「学習スペースの増加」のみ出身地域別で有意差がなく、その他の項目に関しては、すべて有意差が認められた(表15)。「自国語の資料の増加」「母国語の利用案内・館内掲示の設置」のサービスは、漢字圏出身者に強く望む声が高く、逆に、「英語文献の増加」「文献や情報の探し方の説明」「図書館員による資料収集の援助」「留学生担当の職員配置」に関しては、非漢字圏出身者が強く望むサービスであった。
- (g)「東京大学図書館でこれまで以上に収集して

表13 データベースの利用(出身別)

| | | よく利用している | あまり利用していない | データベース・サービスを知らない | 知っているが利用したことがない | 合計 |
|-----------|------|-----------|------------|------------------|-----------------|-----|
| データベースの利用 | 漢字圏 | 136 (2.8) | 73 (0.9) | 27 (-4.1) | 18 (-0.9) | 254 |
| | 非漢字圏 | 72 (-2.8) | 45 (-0.9) | 46 (4.1) | 17 (0.9) | 180 |

表14 留学生向けサービスの利用(出身別)

| | | よく利用する | あまり利用していない | 知らない | 知っているが利用したことがない | 合計 |
|----------|------|-----------|------------|-----------|-----------------|-----|
| 母国語新聞の利用 | 漢字圏 | 45 (0.2) | 72 (-0.7) | 89 (2.7) | 45 (-2.3) | 251 |
| | 非漢字圏 | 31 (-0.2) | 57 (0.7) | 42 (-2.7) | 49 (2.3) | 178 |

表15 希望するサービス(出身別)

| | | 強く望む | 望む | 望まない | 合計 |
|------------------|------|------------|-----------|------------|-----|
| 自国語の資料の増加 | 漢字圏 | 88 (3.4) | 120 (4.4) | 36 (-8.0) | 244 |
| | 非漢字圏 | 37 (-3.4) | 50 (-4.4) | 91 (8.0) | 178 |
| 母国語の利用案内・館内掲示の設置 | 漢字圏 | 38 (0.7) | 84 (2.6) | 113 (-2.9) | 235 |
| | 非漢字圏 | 24 (-0.7) | 42 (-2.6) | 110 (2.9) | 176 |
| 英語文献の増加 | 漢字圏 | 94 (-7.1) | 110 (5.9) | 31 (2.4) | 235 |
| | 非漢字圏 | 135 (7.1) | 34 (-5.9) | 11 (-2.4) | 180 |
| 文献や情報の探し方の説明 | 漢字圏 | 110 (-3.4) | 106 (3.2) | 31 (0.5) | 247 |
| | 非漢字圏 | 111 (3.4) | 50 (-3.2) | 20 (-0.5) | 181 |
| 図書館員による資料収集の援助 | 漢字圏 | 74 (-3.9) | 97 (1.3) | 70 (3.0) | 241 |
| | 非漢字圏 | 89 (3.9) | 62 (-1.3) | 30 (-3.0) | 181 |
| 留学生担当の職員配置 | 漢字圏 | 66 (-3.4) | 88 (0.8) | 91 (2.6) | 245 |
| | 非漢字圏 | 77 (3.4) | 58 (-0.8) | 46 (-2.6) | 181 |

表16 希望する資料（出身別）

| | | 強く望む | 望む | 望まない | 合計 |
|---------------|------|------------|-----------|-----------|-----|
| 研究のための資料 | 漢字圏 | 220 (1.6) | 32 (-0.2) | 3 (-2.9) | 255 |
| | 非漢字圏 | 146 (-1.6) | 24 (0.2) | 11 (2.9) | 181 |
| 生活情報を知るための資料 | 漢字圏 | 71 (2.3) | 109 (1.5) | 66 (-3.6) | 246 |
| | 非漢字圏 | 34 (-2.3) | 66 (-1.5) | 78 (3.6) | 178 |
| 母国の現状を知るための資料 | 漢字圏 | 65 (-6.3) | 137 (5.6) | 44 (0.7) | 246 |
| | 非漢字圏 | 101 (6.3) | 50 (-5.6) | 27 (-0.7) | 178 |

欲しい資料」（質問13）に関しては、「研究のための資料」「生活情報を知るための資料」について漢字圏出身者に強く望む声が高く、また「母国の現状を知るための資料」については非漢字圏出身者に強く望む声が高かった。「日本語学習テキスト」「母国語・日本語対訳辞書」については、有意差が認められなかった（表16）。

3.4 結果の総括

専攻分野（文系・理系）別、身分（修士・博士課程）別、出身地域（漢字圏・非漢字圏）別に行った東京大学附属図書館の利用動向に関する分析の結果をまとめると以下ようになる。

- 1)総合図書館と所属以外の学部図書室の利用については、文系の院生の利用度が高い。この結果は、文系は図書館利用率が高いという伝統的な見解が留学生の図書館利用についても妥当することを示している。また、所属学部の図書館利用において文理に差がないことは、理系にとっても所属学部の図書室については重要な情報収集の拠点となっていることを示唆している。
- 2)データベース・電子ジャーナルの利用については、理系の方が利用頻度が高い。その原因として、利用者のオンライン上での検索経験、オンライン上でサービスを提供している雑誌数の違い等が考えられるが、どの要因がどの程度影響を与えているかについては、今後の検討課題として残される。
- 3)修士課程・博士課程別の図書館・室利用については、所属以外の学部図書室や相互貸借の利用において、修士課程の院生よりもそれらの利用頻度が高かったことから、博士課程の

院生は資料入手においてより広範囲の機関を利用するという傾向が窺える。また、データベース・電子ジャーナルの利用頻度についても、博士課程の院生の方が高い。

- 4)東京大学の図書館に望んでいるサービスおよびこれまで以上に望んでいる資料に関しては、修士・博士でその傾向に差がないことが確認された。
- 5)総合図書館および所属の学部図書室の利用にあたっては、漢字圏出身者の方が非漢字圏出身者よりも利用頻度が高いことが示された。
- 6)図書館サービスの利用については、漢字圏出身者は、「図書の利用」、「コンピュータ機器の利用」、「学習のためのスペースの利用」の頻度が高く、非漢字圏出身者は、「雑誌の利用」、「レファレンスサービスの利用」の頻度が高いという結果が得られた。
- 7)東京大学図書館に望んでいるサービスについては、漢字圏出身者は、「自国語の資料の増加」「母国語の利用案内・館内掲示の設置」といったハード面での需要が強い一方で、非漢字圏の出身者は、「英語文献の増加」「文献や情報の探し方の説明」「図書館による資料収集の援助」「留学生担当の職員配置」といったソフト面、図書館職員による情報仲介サービスに対する需要が強いことが示された。

4. おわりに

本稿での分析は、東京大学大学院に在籍する留学生をいくつかのカテゴリーに分類し、その利用動向について示したものである。したがって、本研究は、東京大学を対象とした事例研究のひとつに過ぎず、その結果は、日本の大学院に在籍する留学生の図書館・情報サービスの利用動向として、必ずしも一般化できるものではない点に限界

を持っている。他の大学図書館との比較研究あるいはメタアナリシス等によって、留学生の利用動向について、より普遍的な知見を得ることが今後の課題である。

注・引用文献

- 1) 文部科学省『留学生受入れの概況：平成15年版』
(http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/15/11/03111102.htm)
- 2) 大臣官房総務課広報室『平成14年11月15日大臣会見の概要』
(http://www.mext.go.jp/b_menu/daijin/021106.htm)
- 3) 日本図書館研究会研究委員会“留学生に対する大学図書館サービスの実態調査報告”，『図書館界』Vol.41, No.5, 1990, p.206-211.
- 4) 小林 卓・高畑圭子“留学生へのサービスの実態調査：関東の大学を中心に”，『図書館界』Vol.44, No.2, 1992, p.82-87.
- 5) 日本図書館協会障害者サービス委員会『「留学生サービスに関する調査」報告書：1998年調査』日本図書館協会, 1999.3, 27p.
- 6) 呉 凱・顧 銘・芳鐘冬樹・三浦逸雄“東京大学における外国人留学生の情報利用の実態：アンケート調査の結果と分析”，『2002年度日本図書館情報学会春季研究集会発表要綱』2002, p.19-22.
- 7) 三浦逸雄・呉 凱・顧 銘・芳鐘冬樹“東京大学における外国人留学生の図書館・情報サービス利用の実態：アンケート調査の結果と分析”，『東京大学大学院教育学研究科紀要』Vol.42, 2003, p.349-367.
- 8) 『学内広報』No.1216, 東京大学広報委員会, 2001.6, p.8-19.
- 9) 前掲7)
- 10) クロス集計表による分析については, Saracevicら(1988)が参考になる。情報検索研究における統計的手法の利用についての解説が詳しい。Saracevic, T., Kantor, P., and Chamis, A. "A study of information seeking and retrieving, 1: Background and methodology", *Journal of American Society for Information Science*, Vol.39, No.3, 1988, p.161-176.
- 11) Borgman, C. "All users of information retrieval systems are not created equal: An exploration into individual differences", *Information Processing & Management*, Vol.25, No.3, 1989, p.237-251.
- 12) 本論の分析では, すべて有意水準5%に設定している。
- 13) Spink, A. "The effect of user characteristics on search outcome in mediated online searching", *Online & CDROM Review*, Vol.17, No.5, 1993, p.275-278.
- 14) ここでは, 大学院研究生は対象外としている。博士課程修了の後も研究科に在籍している学生だけでなく, 研究科によっては, 修士課程前の外国人留学生も大学院研究生として認められることがあり, 性格の異なる両者を合わせて, ひとつの身分カテゴリーとして扱うことはできないためである。

付録

外国人留学生図書館利用アンケート調査票

あなたの資料・情報ニーズの充足手段についておたずねします。

(1) 学習や研究のための資料や情報の入手方法についておたずねします。各番号のものと該当する記号(A:よく利用している B:あまり利用していない C:利用したことがない)を で囲んでください。

- | | | | |
|---------------------------------|---|---|---|
| 1. 東京大学の図書館(総合図書館・部局図書館・室)..... | A | B | C |
| 2. 東大以外の専門図書館・大学図書館 | A | B | C |
| 3. 地域の公共図書館 | A | B | C |
| 4. 所属研究室の資料 | A | B | C |
| 5. インターネット | A | B | C |
| 6. 書店(新刊書店・古書店)で購入 | A | B | C |
| 7. 友人などから情報や資料を入手 | A | B | C |
| 8. その他(具体的に書いて下さい: _____) | | | |

(2) 母国に関する情報の入手方法についておたずねします。各番号のものと該当する記号(A:よく利用している B:あまり利用していない C:利用したことがない)を で囲んでください。

- | | | | |
|------------------------------|---|---|---|
| 1. インターネット | A | B | C |
| 2. 日本で出版された日本語の新聞・雑誌など | A | B | C |
| 3. 日本で出版された母国語の新聞・雑誌など | A | B | C |
| 4. 母国で出版された新聞・雑誌など | A | B | C |
| 5. テレビやラジオ | A | B | C |
| 6. その他(具体的に書いてください: _____) | | | |

あなたの図書館利用についておたずねします。

(3) 東京大学の図書館・室の利用についておたずねします。各番号のものと該当する記号(A:よく利用している B:あまり利用していない C:利用したことがない)を で囲んで下さい。

- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 総合図書館 | A | B | C |
| 2. 自分が所属する学部(研究所・研究センター・学科・コース・研究室など)図書館・室 | A | B | C |
| 3. それ以外の学部(研究所・研究センター・学科・コース・研究室)図書室 | A | B | C |
| 4. その他(具体的に書いて下さい: _____) | | | |

(4) 東大の図書館・室が提供しているサービスの利用についておたずねします。各番号のものと該当する記号(A:よく利用している B:あまり利用していない C:利用したことがない)を で囲んで下さい。

- | | | | |
|------------------------------|---|---|---|
| 1. 図書の閲覧・貸出・コピー | A | B | C |
| 2. レファレンス(相談)サービス | A | B | C |
| 3. 雑誌の閲覧・貸出・コピー | A | B | C |
| 4. 相互貸借サービス(文献複写・現物貸借) | A | B | C |
| 5. 新聞の閲覧 | A | B | C |
| 6. コンピュータ機器の利用 | A | B | C |
| 7. 学習のためのスペース | A | B | C |
| 8. その他(具体的に書いて下さい: _____) | | | |

(5) 東京大学附属図書館のオンライン目録(WebOPAC)の利用についておたずねします。該当する番号を で囲んで下さい。

1. よく利用している
2. あまり利用していない
3. WebOPACを知らない (7)へ
4. 知っているが利用したことがない (7)へ

- (6) 東京大学のオンライン目録は利用しやすいと思いますか。該当する番号を で囲んで下さい。
1. 利用しやすい
 2. 全体として利用しやすいが、利用しにくいところもある
 3. 利用しにくい(理由を書いて下さい: _____)
 4. わからない
- (7) 東京大学の図書館・室が提供しているデータベースサービス(Web of Science, FELIX(雑誌記事索引, SwetScan, PCI), Medline, Compendix Plus, First Search など)の利用についておたずねします。該当する番号を で囲んで下さい。
1. よく利用している
 2. あまり利用していない
 3. データベース・サービスを知らない
 4. 知っているが利用したことがない
その理由は何ですか。該当する記号を で囲んで下さい。
A. 必要がない
B. 使い方がわからない
C. その他(具体的に書いて下さい: _____)
- (8) 東京大学附属図書館が提供する電子ジャーナルの利用についておたずねします。該当する番号を で囲んで下さい。
1. よく利用している
 2. あまり利用していない
 3. 電子ジャーナルの提供について知らない
 4. 知っているが利用したことがない
その理由は何ですか。該当する記号を で囲んで下さい。
A. 必要がない
B. 使い方がわからない
C. その他(具体的に書いて下さい: _____)
- (9) 東京大学総合図書館が提供している次のサービスを利用したことがありますか。各番号のものと該当する記号(A:よく利用している B:あまり利用していない C:知らない D:知っているが利用したことがない)を で囲んで下さい。
- | | | | | |
|---------------------------|---|---|---|---|
| 1. 留学生図書コーナー | A | B | C | D |
| 2. 衛星放送(CNN, BBC)設備 | A | B | C | D |
| 3. 新聞コーナーの母国語新聞 | A | B | C | D |
- (10) 東京大学の図書館(総合図書館や部局図書館・室)が実施しているオリエンテーションに参加したことがありますか。該当する番号を で囲んで下さい。
1. 参加したことがある
現在、役に立っていますか。該当する記号を で囲んで下さい。
A. 役に立っている B. 役に立っていない C. わからない
 2. 参加したことがない
その理由は何ですか。該当する記号を で囲んで下さい。
A. 必要がない B. 参加する時間がない C. オリエンテーションを知らなかった
- (11) あなたは東京大学情報基盤センターが開いているデータベース定期講習会に参加したことがありますか。該当する番号を で囲んで下さい。
1. 参加したことがある
役に立っていますか。該当する記号を で囲んで下さい。
A. 役立っている B. 役立っていない C. わからない
 2. 参加したことがない
その理由はなんですか。該当する記号を で囲んで下さい。
A. 必要がない B. 参加する時間がない C. 知らなかった

(12) あなたは東京大学の図書館にどのようなサービスを望んでいますか。各番号のもとの該当する記号(A:強く望む B:望む C:望まない)を で囲んで下さい。

- | | | | |
|----------------------------------|---|---|---|
| 1. 自分の国(言語)の資料を増やして欲しい | A | B | C |
| 2. 文献や情報の探し方をわかりやすく説明して欲しい | A | B | C |
| 3. 資料や情報の収集を図書館員に手伝って欲しい | A | B | C |
| 4. 学習のスペースを増やして欲しい | A | B | C |
| 5. 留学生担当の職員を配置して欲しい | A | B | C |
| 6. 母国語の利用案内・館内掲示が欲しい | A | B | C |
| 7. その他(具体的に書いて下さい: _____) | | | |

(13) どのような資料を東京大学の図書館でこれまで以上に収集して欲しいとお考えですか。各番号のもとの該当する記号(A:強く望む B:望む C:望まない)を で囲んで下さい。

- | | | | |
|----------------------------|---|---|---|
| 1. 研究のための資料 | A | B | C |
| 2. 母国の現状を知るための資料 | A | B | C |
| 3. 生活情報を知るための資料 | A | B | C |
| 4. 日本語学習テキスト | A | B | C |
| 5. 母国語・日本語対訳辞書 | A | B | C |
| 6. その他(具体的に書いてください: _____) | | | |

最後にあなた自身のことをおたずねします。

(14) あなたはどこの国の出身ですか

(15) あなたは日本に何年滞在していますか

(16) どの程度日本語ができますか。該当する番号を で囲んでください。

1. 話すことも読むこともよくできる
2. 話すことはよくできるが、読むことはあまりできない
3. 読むことはできるが、話すことがあまりできない
4. 話すことも読むこともあまりできない

(17) あなたの専攻分野はなんですか

(18) あなたの東京大学における身分はなんですか。該当する番号を で囲んでください。

1. 学部学生
2. 学部研究生
3. 大学院生(修士)
4. 大学院生(博士)
5. 大学院研究生
6. 研究所研究生
7. その他(具体的に書いて下さい: _____)

ご協力ありがとうございました